



て最悪で、間ノ岳に着く頃はますます険悪で暴力的な風が吹きまわってきた。
この登りで毛利、杉山がだいぶ疲れた表情をみせる。少し心配になる。稜線小屋まではほとんど夏道を行く。中白根で稜線小屋が見えると疲れていた毛利、杉山も少し元気になる。冬山は低温、低圧、強風でやられる場合が多い。毛利

は長いマツゲに氷が付着して丸くなり重みで前が良く見えないようだ。小屋は無人で開放され、すでに20名位入っていた。

暗い小屋の中で「ゴト」と声を掛けられたので目を凝らして見ると以前「沼津山の会」で一緒に登った黒沢だった。中に入りとあえず一服する。あの風から解放されただけでもひと安心。タバコが実にうまかった。皆で熱いラーメンを食べたら、先程までの苦しい登りはウソの様に軽いジョークも出る。今山行で一番キツイと予想した所が終わり私もホッとした。15時より夜叉神隊の竹端らとトランシーバーで交信するものの、受信が上手にいかなかった(向こうには

届いていたらしい)。16時の天気図は昨日と変化がなかったが予報では高気圧が張り出し、冬型になってきたとのこと。淡い期待をいだいた。

1月2日(快晴) マイナス18度
 へタイム)起床2:00 出発5:30
 北岳肩7:00 北岳7:20
 北岳肩7:30 八本歯の頭8:45
 砂払いの頭10:15 池山小屋11:30
 あるき沢橋12:30 荒川橋13:10 三島18:30

シユラフの中で目を覚ますとけっこう寒かった。外に出た人に天気を尋ねると一言「快晴です」の返事。皆を起こして朝食の準備をする。今朝も野菜と肉がタップリ入ったオジヤだ。今回このオジヤが好評で(も)ともこんなものしかなかったが、おいしく何回もお代わりした。流動食で食べ易い。
 朝食が終わると一番辛いキジ打ちだ。先に済ませた杉澤の話では下からの吹き上げが厳しいとのこと。以前読んだ本には冬は硬めの物をコロッとやるとあったが仲々そううまくはいかない。
 北岳の頂上で御来光ということ少し遅らせて小屋を出る。稜線

に出ると相変わらず風は強かったが雪が飛ばされているので道は歩きやすい。そして東の空が静かに明ける。山口が「アッ」といって小屋に8ミリの忘れて来たことを皆に告げる。もったいないので山口は踵を返して取りに行く。私達はなるべく風の来ないところで待つ。実に寒かった。目の前にはすでに足下になった弘法小屋尾根がスーと美しい稜線を東に伸ばしている。ああ、とうとう私達はあの尾根登ったのだ。

北岳の肩から頂上は簡単に達した。皆で記念写真を撮ったり石を拾ったりする。下りはアイゼンの片方ない杉山が苦労する。再び肩に戻り下山開始。砂払いの頭で清水山と会い談話。彼らに荷上げ品を進呈することにした。(結局あちこち掘ってみたが分らないかったらしい)ポーズボンの頭を越えヤッケ、オーバースボン、アイゼンを脱ぐ。風もなく穏やかな日であった。全員に笑顔がこぼれる。私はここまでくれば大丈夫とホッと少し疲れを感じた。長いように短かった76年冬山合宿。私は下山しながら、いろいろのことを考えていた。会全体で、皆で力を合わせてこれだけの成果が得